

ひろしま郷土資料館だより

NO.111

企画展 タイムトラベルくらし80年

—くらべて実感、わたしたちのくらし

(被爆80周年記念事業)

会期：令和7年12月6日(土)～令和8年2月23日(月・祝)

令和7年は広島市にとって大きな節目となる被爆80周年に当たり、全市で記念事業が企画されました。本展もその一事業です。

今の広島で生きるわたしたちが昭和のくらしをのぞいたら、きっとびっくりするような変化が見えてくるに違いありません。逆に戦中戦後を生きた人たちからすれば、令和のくらしは想像もつかなかったものでしょう。本展は、昭和20年(1945)頃から令和7年(2025)までのそれぞれの時代のくらしを、様々な生活道具等からたどり比較しながら80年間の変化を実感するとともに、平和の尊さも再認識できればと構成してみました。

今回は2階の企画展示室に留まらず、1階の常設展示室や展示ロビーも会場としました。くらしのあらゆる場に注目していくことから、昭和40年代の女子児童がお絵描き帳に描いていた理想のお家の間取り図を導入とし、昭和50年代に流行したゲーム喫茶を模したコーナーにインベーダーゲームのテーブルと喫茶店のメニュー食品サンプル等を展示し、雰囲気盛り上げました。

1階は「くらしのフロア」と位置づけ、家族の日常生活の場として、くらしを清潔に保つための風呂、便所、洗濯、掃除の、あるいは食に関わる炊飯や冷蔵庫の変化に触れました。昭和30年代に入るところから「電化」により家事に対する「ゆとり」が生まれ、その主たる担い手だった女性の社会進出にも一役買ったこと、よりよいくらしを求めての工夫や向上はたゆまず続いていることなどを紹介しました。

また、情報伝達手段の電話やテレビなどのマスメディア、あるいは写真や動画を記録するカメラ、音楽を楽しむプレーヤーなどの機能が、現代では1台のス



洗濯のうつりかわり



紙芝居屋さんの自転車を再現してみました

目次

P 1-2 企画展 タイムトラベルくらし80年

P 2-4 企画展 写真で見る宇品陸軍糧秣支廠

P 4-5 企画展 ごんぎつねが語る昔のくらし

P 5 パネル展示 海を学ぼう～海の調査と海図～

P 6 スペシャルイベント 一銭洋食作りとクイズラリー

P 6-7 活動報告 (令和7年10月～令和8年3月)

P 8-9 令和8年度(2026年度) 企画展の紹介

P 9 広島市郷土資料館サテライトオープン



鉄砲風呂浴槽と銭湯の様々な掲示物



おままごとと乗り物のおもちゃ

スマートフォンに集約されている様子なども紹介しました。

1階に置ききれなかった計算機類は2階最初のコーナーに上げ、現在学校でも習うそろばんを始め、今ではあまり見ることのない計算尺や手回し計算器、大きな電卓、キーの重いレジスター等を展示しました。

2階は「こども部屋」と設定し、紙芝居やおもちゃ、ゲーム機などこどもの楽しみの世界と、教科書や机、ランドセルなどの学校生活に関わるうつりかわりを紹介しました。戦時中の国策紙芝居「金物総動員」をキーに、戦争に直接行かなくても子どもたちも協力できると教化されたことや、実際に金属不足で代用された陶器ボタンや布製のバケツなどを紹介しました。戦後は紙芝居も街角や学校等で楽しく上演されますが、テレビの普及とともに姿を消していきます。

こどもはおもちゃがなくても遊べますが、おもちゃがあると心が弾みます。ビー玉やコマ、メンコなどの素朴なおもちゃもあれば、プラスチックが出回り始めたころのカラフルなおままごとセットには、当たり前のようにかわいらしいらいと洗濯板のセットが付き、世代を超えて愛される「リカちゃん

人形」には発売時の世代のあこがれが反映されています。ボードゲームの「人生ゲーム®」や日本で誕生した「オセロ®」など、現在でも親しまれているゲームは世代が違って語り合える共通の話題となっていました。昭和50年代にテレビゲームがいよいよ家庭に登場すると、子どもたちの遊びの世界で不動の地位を築き始めます。

最後のコーナーは学校生活の一部を取り上げました。戦後の教育方針の転換から、軍国主義的な内容を墨で消したいいわゆる墨塗り教科書は複雑な気持ちで平和な時代の到来を感じさせたことでしょう。また、昭和時代の小さい教科書と、それを入れる今では考えられないくらい小さなランドセル、木やスチールの学童机、生活科を学んだ子どもたちが知らない、1年生でも理科を学んでいた時代の教科書、20年前、平成中期の小学生の部屋にあった少し大きいランドセルや鍵盤ハーモニカ、ゲームの攻略本なども展示してみました。

本展の会期中は、小学校団体の見学も多く、そのうち3割ほどの学校が企画展の解説を利用してくださりました。同時期来館団体の半分近くが本展の会場でもある1階常設展の「昭和の茶の間と台所」の解説を利用されていることを考えると、多くのニーズに応えられたと思います。また、くらしの道具等を通して、違う世代の人々が「なつかしいね」「初めて見たよ」と語り合える場を提供できたことも、有意義なことでした。だれかの「なつかしい」記憶がだれかの「あたらしい」発見として共有され、未来につながっていくことを願ってやみません。

(前野やよい) 会期中の来館者数 3,911名

企画展 写真で見る宇品陸軍糧秣支廠

会期：令和8年3月7日(土)～7月5日(日)

明治22年(1889)、多くの困難の末、宇品港<昭和7年(1932)に広島港と改称>が完成しました。その後、明治27年(1894)に始まった日清戦争を契機に、宇品地区周辺には多くの軍需施設が設けられ、『軍都広島』

の重要な役割の一端を担うことになりました。その一つが「宇品陸軍糧秣支廠」です。広島市指定重要文化財である当館のレンガ建物は、今から115年前の明治44年（1911）に建てられた宇品陸軍糧秣支廠缶詰工場の一部です。

企画展の中心をなす宇品陸軍糧秣支廠缶詰工場の作業風景の多くは、昭和15年（1940）～17年（1942）頃に当時の技師が撮影しており、見どころは宇品支廠内の働く人々を撮影した写真が多く含まれているところです。技師の視点から見た、食肉処理場及び缶詰工場内の作業の様子は、工程ごとに撮影されています。宇品支廠の実態の一旦を明らかにするだけでなく、当時の缶詰製造技術を知る上でも貴重な資料といえます。当時の軍事機密の軍施設の内部写真がまとまって残された例はめずらしく、敗戦時に軍関係の公文書や写真が一斉に焼却処分されていることから考えても貴重と言えます。平成10年に技師のご子息から宇品陸軍糧秣支廠の内部写真約130点の資料提供を受けました。

戦前、軍都と呼ばれた広島では、軍に関する様々な産業が発展し、市民生活にも大きく影響を与えていました。軍は市民生活に圧力を与える存在でもありましたが、一方で、軍事施設や宇品陸軍糧秣支廠などは、多くの市民の取引先、勤め先、勤労奉仕先として関係があり、市民生活を潤している面もありました。これらの事実もふまえた当時の多様な人々の姿の展示を通して、戦前の広島について考える材料の一つとなれば幸いです。

【展示内容】

1、宇品陸軍糧秣支廠のはじまり～歴史的背景～

明治27年（1894）の日清戦争以降、広島は兵士や軍需品などを送り出す、戦争の後方支援のための基地として位置づけられました。このため、宇品支廠以外にも兵器支廠、被服支廠などの軍需施設が設置・拡充されました。

2、宇品陸軍糧秣支廠の施設

御幸通り西の南北に延びた敷地の中に缶詰工場の他に搗精工場や倉庫などを有していました。

3、宇品陸軍糧秣支廠の缶詰製造

缶詰工場内の業務風景を撮影した写真を多く展示しています。作業の様子が工程ごとにほぼ余すところなく撮影しています。

4、宇品陸軍糧秣支廠の日々

宇品支廠の労働条件、賃金、福利厚生は民間よりも良く、診療所や託児所もありました。広島市民にとって宇品支廠は取引先、勤め先、業務の請負先としての関わりがありました。陸軍各部隊に商品を納入した実



展示風景



宇品支廠買上 水飴



宇品支廠四十周年記念杯

績を持って「陸軍御用達」を看板・広報に掲げる業者も多数ありました。

5、戦時下の糧秣支廠と原爆被害

空襲の危険が増してくると、昭和19年(1944)末には缶詰工場での生産は中止され、機械や貯蔵品を分散疎開させました。昭和20年(1945)8月6日原爆が投下されます。宇品支廠は爆心地から3.2km離れていたこと、レンガ建物が多かったことなどから、建物の倒壊や火災は免れましたが、缶詰工場は窓ガラスが割れ、爆心地側(北側)の屋根の鉄骨が折れ曲がりました。宇品支廠は臨時救護所となり、建物内は負傷者で一杯になりました。

6、エピローグ 民間食品会社から広島市郷土資料館へ

缶詰工場の建物は昭和21年(1946)5月から広島糧工株式会社が借り受け、昭和52年(1977)まで食品を生産します。その後使用されない時期が続きますが、明治のレンガ建築でもあり意匠に優れていること、被爆建物であることなどから工場南側の3分の1程度の建物を保存することになりました。昭和60年(1985)4月に建物の壁・屋根・庇が広島市有形重要文化財に指定され、5月には広島市郷土資料館が開館しました。



【写真81点、図面・地図資料5点、実物資料32点、計118点】
(河村直明)7月5日(土)まで開催中。

2階展示風景

企画展「ごんぎつねが語る昔の暮らし」

会期：令和7年9月6日(土)～11月24日(月・振休)

秋の恒例展示である企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」。今年度も無事に終了しました！

この展示は、平成13年度から当館の恒例展示として開催しており、元は小学校4年生の国語科で学習する童話『ごんぎつね』のストーリーに沿って、社会科の学習単元「昔の暮らしの道具と人々の暮らしの様子」で学ぶ昔の生活道具を紹介するものでした。(現在は、「昔の暮らしの道具と人々の暮らしの様子」は小学校3年生で学習します。)

展示は、江戸時代頃の農村での暮らしに実際に使用されていた生活道具を中心に、登場人物の兵十が魚獲りに使っていた「はりきり網」や行商で使われる「皿ばかり」、「大八車」、物語の最後に出てくる「火縄銃」などの道具によって物語の世界をより身近に感じることができる内容となっています。

現在は様々な技術が発達して人々の生活様式は『ごんぎつね』の頃とは大きく様変わりしています。しかし、よく見てみると「唐箕」→「穀物選別機」や「魚籠(びく)」→「魚籠クーラーボックス」など現代でもその仕組みを利用した機械や道具は多くあります。改めて展示を見ながら先人の知恵や工夫に感嘆させられます。そして、同じ仕組みの道具を昔の人たちも使っていたと考え、一気に「ごん」や「兵十」たちに親近感が湧いてきませんか？



展示風景



会期中クイズ参加者に配布したポストカード

会期中は、クイズ形式のワークシートを作成し、土日祝の来場者に自由に利用してもらえるよう設置しました。親子連れだけでなく大人の方も楽しめるような内容を目指し、物語のラストを自由に考えてもらうワークシートも追加してHPやSNSにアップしました。実際にシートの答えを見せに来てくれたお子様や来場者の方もおられとても嬉しかったです。また、ワークシートの参加賞としてプレゼントした「ポストカード」も可愛いと好評でした。

今後も、学校等の学習の一助及び来場される方の学びの場となるような工夫をしていければと思います。

(畑中志穂) 会期中の来館者数：4,764名



展示ガイドの説明を聞いている来館者

パネル展示「海を学ぼう～海の調査と海図」

実施期間：令和7年9月6日(土)～11月24日(月・振休)

第六管区海上保安本部海洋情報部との共催パネル展「海を学ぼう～海の調査と海図～」を開催しました。今年度で7回目の開催となります。陸上には国土地理院が製作する地形図があります。一見して平らに見える海ですが、実は海の底には、山や谷があるのです。海の底の地図を「海図」と言います。地図上に海の深さを数字で表しているのが特徴です。また、灯台の位置、海潮流の速さ方向などが記載されています。航海のためには大切なものです。この海図を製作しているのが、海上保安庁海洋情報部です。今回の展示も子どもたちにも分かりやすいように、「海の中がどうなっているか、みなさんは考えたことがありますか」と質問からはじまります。続いて「海にも山や谷がある」「地上の地図―海の地図」「船のための地図…海図」「海の深さはどうやって調べるの」「調べた海の深さを地図に書いてるよ」など順序だてて、図や写真を交えて疑問を解決する形で説明しています。また、海図の歴史のVTR上映や、海図の記号クイズ、もっと知りたい方のために海上保安庁のサイト「海しる」の紹介がありました。

子どもだけではなく、大人も楽しめる「海図」展となりました。(河村直明)

会期中の入館者：4,764名



展示風景



展示風景

スペシャルイベント「一銭洋食作りとクイズラリー」

実施期間：令和7年11月3日（月・祝）

文化の日に、郷土資料館で楽しい1日を過ごしていただき、郷土資料館のことをもっと知っていただこうと計画しました。

(1) 広島のお好み焼きのルーツとなった「一銭洋食」を自分で作って試食するコーナーと電子レンジでつくる「わらび餅」試食コーナーを作りました。できたものは、見た目はいろいろな形がありましたが、味はみんな同じ。自分で作った駄菓子味はまた格別でした。

(2) 同時に、館内に置いてある10個のクイズボードを探して問題に答える「クイズラリー」も開催しました。昔の暮らしに関わる問題なので、難しかったかな!?「海図」の問題のところには、第六管区海上保安本部の職員の方には、「海図」についての質問に答えたり、船の折り紙工作などの指導もしていただきました。

多くの方に来て楽しんでいただきました。「郷土資料館に行くと楽しくて、昔のことがよく分かる。また行ってみよう!」とだけいただけたら嬉しいです。(河村直明)

「一銭洋食」「わらび餅」参加者128名、クイズラリー参加者87名、当日の来館者258名



クイズラリーの様子



工作コーナー

活動報告

令和7年10月～3月

教室事業

実施日	事業名	参加者
10月18日(土)	教室 手すきハガキ作り	19名
11月16日(日)	教室 山まゆ糸でブレスレット作り	15名
12月20日(土)	教室 バウムクーヘン作り	20名
1月18日(日)	教室 けん玉教室	20名
2月21日(土)	大人向け教室 大人の染色体験	19名
3月14日(土)	大人向け教室 まち針と糸で作る部屋かざり～まち針ストリングアート入門!	10名

手すきハガキ作り



山まゆブレスレット作り



スペシャルイベント

実施日	事業名	参加者
11月3日(月・祝)	一銭洋食作りとクイズラリー	のべ343名
1月17日(土)	ひろしま郷土史講座① 広島路面電車	52名
2月7日(土)	ひろしま郷土史講座② 広島電鉄駅前大橋ルートが出来るまで	45名
2月18日(水)	ひろしま郷土史講座③ 広電電車車両見学	20名

企画展連携事業

実施日	事業名	参加者
1月10日(土)	新春お楽しみ会	のべ231名

その他の事業(館外事業)

実施日	事業名	主催等	参加者
10月23日(木)	授業「ひろしま未来学 宇品港 ー築港から終戦までー」	広島市立みらい創生高等学校	8名
10月24日(金)	講演「全国の天守復元の歴史と広島城 ～天守閉城に寄せて～」	鈴が峰公民館	13名
10月30日(木)	授業「だんばら、再発見！」	段原小学校	22名
11月19日(金)	授業「広島郷土の歴史探訪 文明開化の時代の広島」	まちなか西国街道推進協議会 竹屋小学校	62名
12月3日(水)	授業「われら、比治山探検隊！」	段原小学校	90名
12月10日(木)	授業「広島郷土の歴史探訪 文明開化の時代の広島」	まちなか西国街道推進協議会 幟町小学校	78名
12月20日(土)	講演「図面で見える宇品陸軍糧秣支廠」	マリン・アシスタント広島	16名
12月27日(土)	講演「可部テツモノガタリ」	可部公民館	27名
1月19日(月)	講義「博物館資料論」	広島市立大学	23名
1月24日(土)	講演「近代可部の産業と流通」	安佐北区図書館	42名
2月28日(土)	講演「広島駅のいまむかし」	南区図書館	38名
3月16日(月)	フィールドワーク 「広島城閉城直前フィールドワーク」	美鈴が丘公民館	27名
3月21日(土)	フィールドワーク 「公民館ネットワーク事業 リモートこうみんかん」	亀山公民館	43名

企画展

写真で見る宇品陸軍糧秣支廠

会期：令和8年3月7日(土)～7月5日(日)

当館の建物であるレンガ建築は明治44年、宇品陸軍糧秣支廠缶詰工場として建てられました。缶詰工場の写真や道具などの展示を通して、工場の様子や糧秣支廠が果たした役割を紹介します。



肉詰め作業の様子(個人蔵)

企画展

夏休み おばけの博物館

会期：令和8年7月18日(土)～8月23日(日)

夏に話題となる「おばけ(妖怪や化け物)の世界」を紹介するとともに、おばけを生み出した昔の人々の暮らしや思いも紹介します。昔の「おばけ屋敷」の疑似体験もできます。



ナマズ妖怪

企画展

『ごんぎつね』が語る昔の暮らし

会期：令和8年9月5日(土)～11月23日(月・祝)

新美南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーをまじえながら、童話に登場する昔の道具や人々の暮らしを紹介します。



展示の様子

企画展

実は広島4

会期：令和8年12月5日(土)～令和9年2月23日(火・祝)

全国的に広く知られている商品や風習・習慣の中には、広島人ですら広島発祥だったことに驚かれるものや、広島では当たり前の日常の「実は」など、案外知られていないケースが意外とあります。今回の展示では、これまでの「実は」シリーズの集大成として、多ジャンルのものを紹介します。



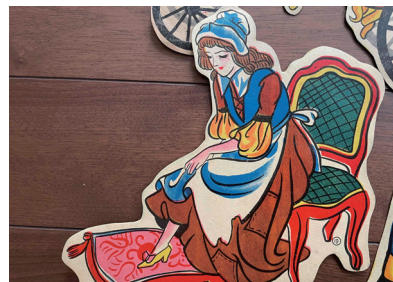
スポーツの応援風景

企画展

郷土資料館 新収資料展

会期：令和9年3月6日(土)～3月31日(水) (予定)

近年市民の方から寄贈いただいた収蔵資料を、くらしや産業、歴史などの側面から小テーマを設けて紹介します。



テンプレート教材(シンデレラ姫)

広島市郷土資料館サテライトがオープン

令和8年(2026)4月1日、エールエール HIROSHIMA9階に「広島市郷土資料館サテライト」がオープンします！広島歴史や文化を紹介し、郷土愛を育む施設として誕生。川・海・山で育まれた産業や祭りなどにも触れ、広島の魅力と平和への思いを共有します。カキ養殖の仕組みが学べるカキ養殖クイズゲームや情報検索ソフトなど体験型コンテンツも豊富にあり、サテライトならではの魅力がたくさん詰まっています♪ぜひ、足を運んでみてください。



広島市郷土資料館サテライト 入口



カキ養殖クイズゲーム

状況により、展示会期・事業等の変更または中止の可能性があります。
あらかじめご了承ください。最新の情報は当館ホームページ等で確認ください。



▲ HP



▲ Facebook



▲ Instagram



▲ X



▲ LINE

ひろしま郷土資料館だより No.111

令和8年(2026)3月31日発行

編集・発行 (公財)広島市文化財団 広島市郷土資料館
〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20

TEL (082) 253-6771 FAX (082) 253-6772

URL <http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/>



広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS